

糖尿病注意報発令中

血液検査から分かる腎機能

●問い合わせ 保健医療課健康支援室

☎53-2111(内線2441~2443)

血液検査の結果を見てみよう

先月号では、尿検査についてご紹介しました。今回は、血液検査から分かる腎臓機能についてお伝えします。

■血清クレアチニンとは

筋肉を使用した後に出てくる老廃物の一種です。腎機能が正常であれば、尿から体外に捨てることができます。しかし、腎機能の機能が低下すると、捨てられずに血液中にたまってしまいます。

最近では、血液検査で血清クレアチニンの値とあわせて、eGFR(推算糸球体濾過量)という指標も腎機能の評価に用いられています。

■eGFR(推算糸球体濾過量)とは

腎機能を推測する指標のひとつです。この値は血清クレアチニン・年齢・性別を基に計算されるため、一人一人の年齢や性別を考慮した、個性の高い指標となります。

腎臓がどれくらい老廃物を尿へ排泄する能力があるかを示しており、この値が低いほど腎機能が低下していることとなります。

■市内の慢性腎臓病の人の現状

市内には、eGFRの値が軽度〜高度低下の人が724人、高度低下〜末期腎不全の人が14人います(図1)。腎臓の働きが1/3まで低下しないと自覚症状がありません。

人工透析にならないよう予防するためには、自覚症状のない段階から生活改善や治療を行うことが必要です。そのため、毎年検査を受け、eGFRの経年変化を確認することが大切です。

加齢により徐々に腎機能は低下していきますが、中には短期間で腎機能が急激に低下する人もいます。まずは健診を受けて、自分の腎臓の状態を確認しましょう。

健診結果を見て気になることがある場合は、かかりつけ医や市の保健師・栄養士までお気軽にご相談ください。



▲健診での血液検査の様子

eGFR	≥90	89~60	59~45	44~30	腎臓の働きが1/3以下	29~15	<15
分類	正常 または 高値	正常 または 軽度低下	軽度 ~ 中等度低下	中等度 ~ 高度低下		高度低下	末期腎不全
			→ 症状がないまま進行			→ 症状がでる	
村上市の状況	329人 (8.2%)	2,965人 (73.5%)	700人 (17.4%)	24人 (0.6%)		12人 (0.3%)	2人 (0.0%)

図1 慢性腎臓病 重症度分類 (H29 特定健診受診者(4,032人)の結果より)